

学校名	河口湖南中学校組合立河口湖南中学校
研究主題	楽しい授業・わかる授業の創造 ～力がつく授業をめざして～
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研究のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと [やり取り]」（会話を継続） ・パフォーマンステスト ・ルーブリックを用いた妥当性・信頼性ある評価 ・指導と評価の一体化（バックワードデザイン） ・スモールトーク </div>	

1 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

令和2年度は、研究指定校2校（湖南中・押原中）が、山梨県版 CAN-DO リストに基づいた、共通のパフォーマンステスト（県教委原案作成）を実施し、授業改善につなげる研究を行った。両校とも同じパフォーマンステストを行うことで見えてきた、授業改善のポイント、パフォーマンス課題やルーブリック設定のあり方等について、研究を深めた。

(2) 具体的な研究活動

以下のようにパフォーマンステストを計画・実施し、分析・検証を行って授業改善につなげた。

対象：中学1学年

パフォーマンステスト実施時期：2学期末

学習指導要領 目標

「話すこと [やり取り]」

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

山梨県版 CAN-DO リスト

「話すこと [やり取り]」1 学年後期

日常的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。

パフォーマンス課題

（日本に来たばかりの）ALT の〇〇先生は、日本の中学生がどんな人物に興味を持っているのか知っていますが、（メモを使いながら）、自分が好きな人物について、〇〇先生と英語でやり取り（会話）をしてください。〇〇先生からの質問に答えたり、〇〇先生に質問したりするなど、話題が深まるように、会話を継続させてください。

※メモは、実態に応じて設定する。英単語〇語など。文は書かせない。

□ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現（※2）	主体的に学習に取り組む態度
a	三人称単数現在形（肯定文・疑問文・否定文） <u>など</u> において、誤りのない正しい英文で話すことができる。	相手からの質問に、新たな情報を加えながら答えたりするだけでなく、話題に合った質問をALT にしたりして、会話を継続させている。	相手からの質問に新たな情報を加えながら答えたりするだけでなく、話題に合った質問をALT にしたりして、会話を継続させようとしている。
b	三人称単数現在形（肯定文・疑問文・否定文） <u>など</u> において、誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障がない程度の英文を用いて話すことができる。（※1）	相手からの質問に、新たな情報を加えながら答えて、会話を継続させている。	相手からの質問に、新たな情報を加えながら答えて、会話を継続させようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

（※1）

コミュニケーションに支障のない誤り	コミュニケーションに支障のあるもの
<ul style="list-style-type: none"> ・名詞の単数、複数 ・冠詞の有無 ・簡単なつづりのミスなど（「書くこと」） ＝意味の理解に支障のない部分的な誤り ＝local error 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要語の欠落や誤り ・文構造の誤り ・大幅なつづりのミスなど（「書くこと」） ＝意味の理解に支障のある全体的な誤り ＝global error

（※2）

a：下記の想定されるパフォーマンス例の二重下線部＝双方向のやり取り

b：下記の想定されるパフォーマンス例の下線部＝ややインタビューのようなやり取り・答え＋α

□想定されるパフォーマンス例

ALT:	Hello, ().
Student:	Hello, () sensei.
ALT:	How are you?
Student:	Good. And you?
ALT:	I'm good, too. I don't know much about Japan. So, today, I want to know about a popular person in Japan. Who is your favorite person?
Student:	Well..., I like Kubo Takefusa very much. He is a professional soccer player. He is still 19 years old.
ALT:	Wow! He is so young.
Student:	<u>Yes. He is good at dribbling..</u>
ALT:	That's nice. Does he play in Japan?
Student:	<u>No, he doesn't. He plays in the strong team in Spain..</u>

ALT:	I see. What position does he play in?
Student:	<u>He plays in the MF (Midfield). My position is the MF, too.</u> <u>() sensei, you like sports. What sports do you like?</u>
ALT:	I like to watch soccer, but my favorite sport is tennis.
Student:	<u>Oh, you like tennis. Why?</u>
ALT:	Tennis is an exciting sport. I like Djokovic the best. He is kind to everyone. Thank you, (). I knew your favorite person well.

□パフォーマンステスト実施前に主に授業で取り組んだこと

- ・ 1問1答形式のインタビューテストを行った。
- ・ スピーチ活動を2回行い、2回目は質問も取り入れながらやり取りにつながるようにした。

2 研究の成果と課題 (○成果●課題)

⇒研究会・学習会で分析・検証したこと

①パフォーマンス課題について

- 授業で「自分が好きな人を紹介する」という言語活動(「話すこと [発表]」)を行っていたので、目的、場面、状況は、生徒にわかりやすかったと思う。
- 会話を継続させることは、中学1年生にとっては大変難しく、簡単な挨拶のあとに好きな人物についてALTが尋ね、それについていくつか質問をするという程度のやりとりとなった。

⇒CAN-DO リストに基づいた系統的な指導と評価事項となっていたか？(課題の難易度は？)

山梨県版 CAN-DO リストより

- 1 学年 日常的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
- 2 学年 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させることができる。
- 3 学年 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続・発展させることができる。

⇒パフォーマンス課題のシナリオは適切だったか？

「話すこと [やり取り]」の課題となっていたか？ [発表] に近いものではなかったか？

どのようなシナリオならば、生徒はALTと自然にやり取りをするか？

⇒「話すこと [やり取り]」における即興性についてどう考えるか？

今回は中学1年生ということもあり、授業で1度紹介した「自分が好きな人」について、ALTとやり取りする課題を設定した。今後は、どのような課題設定をしていくべきか？

②ループリックについて

- 1年生にとってはやや難しい評価基準であった。ALTの先生と事前に打ち合わせをしたが、始めてみると生徒があまりに緊張してしまったため、内容を変えざるを得なかった。

⇒帯活動で、英語を使ってやり取りするスモールトーク等を行ってきたか？

形式や意味に加え、機能の習得のために、目的・場面・状況が設定された言語活動を行ってきたか？

b 基準である「相手からの質問に、新たな情報を加えながら答える」言語活動を仕組んできたか？

③パフォーマンステストを実施して

生徒

○ALT と 1 対 1 でやり取りする機会をもち、普段とは違う生徒の姿が見られた。

○ほとんどの生徒が、メモを持たずに ALT と英語で話すことができた。

○ALT に自分から質問をする生徒がいた。

●パフォーマンステストにまだ慣れていないため、過度に緊張してしまい、声が小さかった。

●ALT からの質問に答えるのに精一杯で、質問を返すなど、やり取りが続かない実態があった。

(Yes, I do. / No, I don't. で会話を終わらせず、新たな情報 (1~2 文) を付け加えたい。)

●相手が言っていることが分からないとき Pardon? / One more time, please. などがまだ使えない。

●覚えたことを言ったり、思い出して発話したりするレベルにとどまり、自分で状況を判断して考えて発話するまでに至っていない。

●つなぎ言葉や相づちが、日本語になってしまっていた。

教師 (JTE / ALT)

○パフォーマンス課題の設定、評価の実践・検証を通して、授業改善と評価改善につなげている。

○生徒が思考力・判断力・表現力を働かせながら、知識や技能を駆使するコミュニケーションになっているのかという、明確な目標をもって授業づくりに取り組むことができている。

●ALT との打ち合わせが不十分なところがあった。

(生徒ともう少し長く対話を続けてほしかったが、早く切り上げる結果となってしまった。)

●生徒が思考して、新たな情報を付け加えようとしている時に、立て続けに質問をしてしまった。

●生徒が対話を理解できず黙ってしまったときに、ゆっくり質問したり、もう少し簡単に関連した質問をしたりするなど、工夫が必要だった。パラフレーズをもっと効果的に使いたい。

●スモールトークに取り組んでいるが、単発で実施しているために質的・量的な発展が見られない。

●パフォーマンス課題とルーブリックを生徒といつ、どのように共有するか？どのようなことができればよいのか、評価内容・評価方法はどのようなものか、生徒といかに共有するか、再考した。

3 来年の研究に向けて (以上の課題を受けて、令和 2 年度 3 学期以降の取組)

・系統的な帯活動 (スモールトーク等) の実践・検証

会話の継続・つなぎ言葉・相づち・関連質問・思考して表現するやり取り・技能統合 等

・バックワードデザインによる授業づくり

指導内容=評価内容=学習内容 → 指導と評価の一体化

・信頼性・妥当性・実用性のある学習評価のあり方

質的評価 (パフォーマンス評価)・3 観点評価・記録に残す評価・振り返り・ICT の活用 等

・小・中・高連携

小・中・高を貫く CAN-DO リストに基づいた授業実践・教材、指導法、学習法等の共有

【参考資料1】生徒のパフォーマンススクリプトと評価例

A: ALT S: Student



コロナ対策として、生徒とALTの間にアクリル板を立てて実施しました！

Student1

A: Who is your favorite person? Please tell me.
 S: Do you know Otani Shohei? (思判表: 自ら質問)
 A: No, I do not. Who is he?
 S: Otani Shohei, he is runs fast. He is baseball player. (知技: 正確さ)
 A: All right.
 S: He is famous.
 A: Do you play baseball too?
 S: Yes. I'm a pitcher. (思判表: 新たな情報)
 A: Oh, I see. Do you want to be a professional baseball player?
 S: No, I don't. ※+αの情報を伝えたい
 A: Thank you. ※Why? や What do you want to be? など質問したい

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	a	a

Student2

A: Who is your favorite person?
 S: He is Akashiya Sanma. Do you know Akashiya Sanma? (思判表: 自ら質問)
 A: Yes, I do. He is a comedian. Very nice.
 S: He is very cool. He is very interesting. He is very popular.
 A: Very good. Do you like comedy? ※Doesを使った質問もしたい
 S: Yes, I do. ※+αの情報を伝えたい
 A: Do you watch comedy on TV?
 S: Yes, I do. ※+αの情報を伝えたい
 A: Thank you.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	b	c

Student3

A: Who is your favorite person?
 S: It's not a person. He is Figaro. (思判表: 独自の情報)
 A: I see.
 S: He eats many mouse pet. (知技: 正確さ)
 A: Oh, I understand.
 S: He is a cat. He is black and white color. Also he is small.
 A: OK.
 S: He is very cute.
 A: I understand. Do you have a cat?
 S: No, I don't.
 A: Do you want a cat?
 S: Yes. ※+αの情報を付け加えたい
 A: I see. And do you want to watch Disney cartoons?
 S: Yes, of course. I like Disney very much. (思判表: 独自の情報)
 A: Me too. Thank you.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	b	b

Student4

A: Who is your favorite person?

S: I like my brother.

A: That's fantastic. How old is your brother?

S: ...

A: How old is your brother?

S: ...

A: How old are you? When is your birthday?

B: Ah, my birthday is July 19th.

S: Do you have only one brother?

A: Yes.

S: All right. When is your brother's birthday? ※生徒が質問を理解するようにパラフレーズ

A: Oh, sorry.

S: You don't know? That's OK. I'm glad you like your brother.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	c	c

Student5

A: Who is your favorite person?

S: My favorite person is Matsumoto Jun. He is a musician.

What is your favorite singer? (知技: 正確さ) (思判表: 自ら質問、本物の情報を引き出す)

A: Oh, my favorite singer is Adele. She is from England. She is a very good singer.

Do you play music?

S: Yes. ※+αの情報を付け加えたい

A: Can you play the piano?

S: No, I can't.

A: Oh, I see. Thank you.

S: Thank you.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	b	b

Student6

A: Who is your favorite person?

S: My favorite is Kei Nishigori.

A: All right. Who is he?

S: He is pro tennis player.

A: Very interesting. Please tell me more.

S: えーっと He is very good tennis player. He is pro tennis player. He good at play back hand. Very cool. Kei Nishigori, very very good shot. (知技: 正確さ) ※つなぎ言葉

A: I see, Do you play tennis?

S: Yes. I like tennis. Kei Nishigori practice place is IMG tennis court in Florida. IMG tennis court, very very big. (思判表: 答え+新たな情報)

A: Do you want to go to Florida?

S: Yes. I want to go to Florida.

A: I hope you can go to Florida and play tennis there. Thank you.

S: Thank you.

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	a	a

帯活動(Small Talk)

「話すこと[やり取り]」

関心のある事柄(日常的な話題)について、簡単な語句や文を用いて、即興で事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う。

相手からの質問に答える

会話を継続

会話を継続・発展

とっても難しい
すぐにできるように
はならない
日々のトレーニング
が必要

内容の伝え合いを重視。その中で必要な指導を行う。(活動を通して指導する)

- 内容重視** ・身近な話題の中で、自分自身の考えや気持ちなどを伝え合わせる。
・教師も自分自身のことを英語で伝える。やり取りを楽しむ。
- 対話の継続** ・対話を継続することができるような表現を段階的に使わせていく。
- 既習表現の活用** ・伝えたいことを伝えることができるよう、既習表現を想起させる指導を行う。
- 指導過程** ・3や4を、「活動→指導→活動」の過程で指導する。 ※詳しくはp.12参照。
- 指導観** ・指導の成果が出てくるのには時間がかかることを理解して指導。フォーマットを暗記させるなど、その場限りのパフォーマンスを求める指導はしない。

英語を用いたコミュニケーションを教師も行う。

展開案について

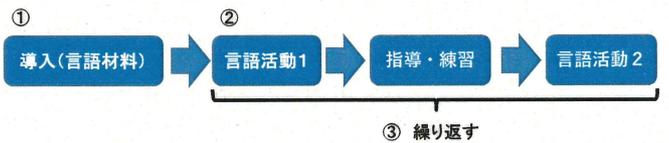
言語活動 及び 各対話例(教師の発話例)	言語活動 及び 対話例(生徒の発話例)	指導上の留意点
1. Interactive Teacher Talk T: It was the Golden Week last week. Did you have fun? I enjoyed it very much. S1: Did you enjoy the Golden Week Holidays? Yes? (全員に問いかける) S1: Did you enjoy the Golden Week Holidays? T: That's nice. What did you do? T: I went to Tokyo. How about you? T: You went to Fukuoka. That's nice. How about you. S2? Did you enjoy it? T: What did you do? T: Oh, you went to Osaka. That's good. What did you do in Osaka? T: Well, you enjoyed... (こじしたやり取りを、教員の生徒と行う)	1. Interactive Teacher Talk S1: Yes. S1: えーと?? S1: ああ、I go to Fukuoka. S2: Yes. S2: I went to Osaka. S2: ...	1. Interactive Teacher Talk ● 既習表現の活用 ● 授業への展開付け ● 指導上の留意点に関する指導
2. S-S Interaction 1 T: Let's talk about Golden Week holidays in pairs.	2. S-S Interaction 1. 対話例 A: Did you enjoy the Golden Week Holidays? B: Yes. A: That's nice. What did you enjoy? B: Tennis. A: Tennis. That's good.	2. S-S Interaction 1 ● 以下のいずれかを計画的に行う。(長時間全てを行う必要はない) ● 場面・場面転換 ● 状況設定の導入 ● 対話の継続
3. Sharing T: Do you have any questions? T: How do you say... (～行った、～帰った、～帰る、～行く) (指導員へ問いかける) T: That's right. "I went to Tokyo." "I went to Tokyo." S3: Can you say that? T: Very good. Anything else? T: What was the first question? (指導員へ問いかける)	3. Sharing S3: ... (～行ったって何と書うのですか、 S4: I go to... S5: I went to... (～か?) S4: I went to Kyoto. S6: はじめの質問なんて書くのか。 S6: "Did you enjoy the Golden Week holidays?"	3. Sharing ● 場面・場面転換 ● 状況設定の導入 ● 対話の継続
4. S-S Interaction 2 T: Let's talk again about the same topic in new pairs.	4. S-S Interaction 2. 対話例 C: Did you enjoy the Golden Week Holidays? B: Yes. C: That's nice. What did you do? B: I enjoyed tennis. C: Tennis. That's good.	4. S-S Interaction 2 ● 指導の留意点

指導過程を統一。

生徒の発話をイメージして指導。

指導上の留意点の詳細は別紙にまとめて提示。
(「③ Sharing」での意図的な指導が極めて重要)

「言語活動を通して」資質・能力を育成



- 教師が生徒と英語でやり取りするSmall Talkで、当該言語材料が使われる自然な場面を設定。
※場面(文脈)の中で「意味」(音を含む)と「機能(使われ方)」を捉える。その後「形式」を捉える。
- 言語活動1(実際に使って、互いの思いや考えを伝え合う)→教師による中間指導・生徒による気づき→言語活動2(ペアを変えるなど)
- 言語材料の提示がない状況でも、別の言語活動を通して、生徒は繰り返し、その表現を使いながら身に付けていく。

会話を継続・発展させるために必要なこと



中学校学習指導要領(平成29年告示)解説
外国語編P61 「話すこと[やり取り]」ア

- 相手に聞き返したり確かめたりする。
(Pardon? / You mean..., right?)
- 相づちを打ったり、つなぎ言葉をういたりする。
(I see. / Really? / That's nice.)
- 相手の答えを受けて、自分のことを伝える。
(I like baseball, too.)
- 相手の答えや自分のことについて伝えたことに「関連する質問」を付け加える。
(What kind of Japanese food do you like?
How about you?)

など

【Warm-Up】

今日会った人と仲良くなったり、自分のことをもっとよく知ってもらったりするために、相手に質問したり、その場で答えたりしてやり取りを継続しましょう!

○相手と仲良くなったり、自分のことをもっとよく知ってもらったりするためには...

(例) やり取り(会話)を「継続・発展」させる必要がある!

(例) 答えに新たな情報を加える
では、相手にどんな質問をすればいい?
相手からの質問にどのように答えればいい?
他にどんなことができる?

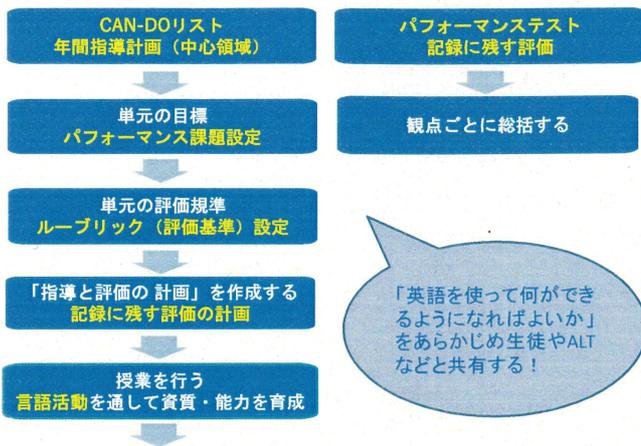
(例) 相づち・リアクション
繰り返し=共感する

○コミュニケーションには、誤解や理解できないことが付きもの...

(例) 聞き返す・確かめる
どう解消する?



バックワードデザイン



「英語を使って何ができるようになるればよいか」をあらかじめ生徒やALTなどと共有する！

CAN-DOリストと年間指導計画を結びつける

(例) 2学年
山梨県版CAN-DOリストの学習到達目標と各単元の「記録に残す評価」の中心領域
(下線部は、単元の題材に即してより具体的に示す。○部分は、生徒の実態や指導過程において適切に設定する。)
※学年末までに、5領域・3観点を評価する。

	聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
1課		日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた○程度の文章の概要を捉えることができる。			日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を○語の○文程度で書くことができる。
2課	はっきりと話されれば、○程度の日常的な話題について、概要を捉えることができる。		日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりして、会話を継続させることができる。		すべての単元ですべての領域を見る必要はない。
3課	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた○程度のものから必要な情報を読み取ることができる。			日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ち等を、語の構成に気を付けながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容で話すことができる。	

○表現の領域 「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」

観点	「何を」評価するか
知識・技能	英語使用の 正確さ
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じた 表現内容の適切さ
主体的に学習に取り組む態度	(基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価) 「～しようとしている」 ※言語活動への取組に関して、見通しを立てたり振り返ったりして、自らの学習を自覚的に捉えている状況についても年間を通じて評価(粘り強さ・自己調整)

○理解の領域 「聞くこと」「読むこと」

観点	「何を」評価するか
知識・技能	話されたり書かれたりしている 内容 を聞き取ったり読み取ったりできるか。
思考・判断・表現	話されたり書かれたりしている内容を聞き取ったり読み取った上で、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、 必要な情報や概要、要点 を捉えることができるか。
主体的に学習に取り組む態度	(基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価) 「～しようとしている」 ※言語活動への取組に関して、見通しを立てたり振り返ったりして、自らの学習を自覚的に捉えている状況についても年間を通じて評価(粘り強さ・自己調整)

観点ごとに総括する①

観点別学習状況の評価の進め方 ※1学期末(1課～3課学習後)を想定

Student A

	1課の結果	2課の結果	3課の結果	パフォーマンステストの結果	話すこと [やり取り] の評価結果	他の領域の評価結果	1学期の観点別評価
知	b	b	b	a	a	(a-c)	(A-C)
思	c	c	b	b	b	(a-c)	(A-C)
態	c	c	b	b	b	(a-c)	(A-C)

いずれの観点においても向上している

Student B

	1課の結果	2課の結果	3課の結果	パフォーマンステストの結果	話すこと [やり取り] の評価結果	他の領域の評価結果	1学期の観点別評価
知	b	a	b	b	b	(a-c)	(A-C)
思	c	b	b	c	b	(a-c)	(A-C)
態	c	b	b	b	b	(a-c)	(A-C)

観ね「b」
パフォーマンステスト結果より過剰重視
観ね「b」

観点ごとに総括する②

観点別学習状況の評価の進め方 ※2学期末(4課～6課学習後)を想定

- 【4課】 単元終末の授業で「話すこと [発表]」を評価
- 【5課】 単元終末の2時間前の授業で「読むこと」の「思考・判断・表現」を評価
- 【6課】 単元終末の授業で「書くこと」を評価
- 【定期】 単元終末の授業で「書くこと」を評価
- 【定期】 定期考査で「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を評価
- 【学期末】 パフォーマンステストで「話すこと [やり取り]」を評価

Student A

	L	R	SI	SP	W			観点
	定	5	定	パ	4	5	6	定
知	c	b	b	c	a	b	c	c
思	b		b	c	b	b	c	b
態	b		b	b	b	b	b	b

※数字：課(4課、5課、6課) 定：定期考査(中間テスト・期末テスト)
パ：パフォーマンステスト

各領域の評価結果を観点別評価及び評定に総括する ※学年末までに、5領域・3観点を評価する。
※単元において評価する中心領域を決め、単元の中でその領域の3観点をa/b/cで評価する。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	観点別評価	評定
知識・技能	b	b	c	c	b	B	3
思考・判断・表現	b	b	c	b	c		
主体的に学習に取り組む態度	b	b	b	b	c		

自己評価(振り返りの記述内容など)を参考にする

- 主な評価方法
- 単元テスト
 - アンケート
 - ノート
 - 授業での行動観察
 - レポート
 - 自己評価
 - 相互評価
 - パフォーマンステストなど